愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅳ		
担当者(Instructors)	虎岩 朋加	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

各自の研究テーマに沿って研究を遂行し、問題を発見する力、論理的に思考する力、分析する力、文章を構成し遂行する力を身につけます。また、研究成果をわかりやすく伝える方法を学びます。全体による対面授業と個別のオンライン授業とを併用させて研究指導を行います。各自が行った文献の分析や研究調査についての個人発表を中心に、発表についてのディスカッションを通して、各自の研究に関するアイデアの推敲を進めていきます。また、各自執筆中の論文の講評会を通して、論文内容を検討しつつ、各自の論文を完成させます。

■授業形態・授業の方法(Class form)		
授業形態(Class form)	演習	
授業の方法(Class method)	演習形式で行います。各自の研究テーマにそって論文を執筆する過程で、ディスカッションやグループワークを用いて、各自の分析方法や考察内容を検討していきます。また、卒業論文にまとめ完成させるとともに、その内容を効果的に発表します。4回程度リモート授業を実施する可能性がある。	

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)				
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分 (Media)	
第1回	研究の進捗状況の確認	研究の進捗状況を確認し、内容をメンバーで交流し合う		
第2回	調査から得た知見の整理	調査から得た知見を適切な形式や方法を使って整理する		
第3回	調査から得た知見の分析	整理した知見を分析する		
第4回	調査から得た知見の執筆	整理した知見を分析した結果を一旦取りまとめて執筆する		
第5回	調査から得た知見の再検討、分析	調査から得た知見をメンバー間で交流し、新たな観点を得て再分析		
第6回	再分析の結果の執筆	再検討・分析した結果を取りまとめる		
第7回	ゼミ内研究経過報告会	ゼミ内で、研究の経過報告を行い、意見交流する		
第8回	分析結果の考察	先行研究に照らして分析結果を考察する		
第9回	分析結果の考察の執筆	先行研究に照らして考察した内容を取りまとめる		
第10回	調査から得た知見や分析、先行研究に 照らした考察の統合	分析の結果や考察の結果を統合し、総合的に考察し、メインとなる 議論を固める		
第11回	序論と結論の執筆	メインとなる議論を主軸として序論と結論を取りまとめる		
第12回	引用文献等の整理	引用文献等を整理する。卒論全体を推敲する		
第13回	発表資料の作成	研究成果のプレゼンテーションを作成する		
第14回	発表資料の推敲	研究成果のプレゼンテーションの推敲をする		
第15回	ゼミ内発表会	ゼミ内で、研究発表会を行い意見交流をする		

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

事前学習として、研究の進捗状況を把握し、論文の執筆を進める(2時間程度)。 事後学習として、授業で明らかになった課題を解決するために先行文献を読んだり、文章を推敲したりする(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された課題は、授業内の意見交流の場でフィードバックをしたり、オンライン上でコメントを付したりして、研究遂行の助けとなるよう にする

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)

知識・技能	◇ 2019子ども発達DP1	先行研究から得られた知見を適切に使用して、自分の議論を構築することができる	
思考力・判断力・表現力	◆ 2019子ども発達DP2	調査から得た知見を使って、研究の問いに呼応する議論を行い、それを記述するこ とができる	
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	調査した内容を適切な方法や妥当な分析枠組みを選び出し、的確に分析することが できる	

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written	実技試験(Practical	レポート試験(Report	授業内試験 (in-	その他(0ther)
exam)	exam)	exam)	class exam)	
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

最終レポート、発表、ゼミ運営への貢献など

■テキスト(Textbooks)			
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)	
1	なし		
2			
3			
4			
5			

■参考図書(references books)			
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)	
1			
2			
3			
4			
5			